

御無沙汰しております

塚野富佐子

長野県・四七・会社員

久しくお手紙出してなかったですね。新婚のころは、連絡がわりに愛してるよ、お体に気をつけてね、お仕事ご苦労様などと綴ったものでした。お互い不規則勤務だったため帰っていても、時間のずれでいなかったり、そのかわり愛のメッセージを入れていたね。あの時の恋文は今もありますよ。

「淳ちゃんお帰りなさい。ここに洋服出しておきました。社員旅行気をつけていつて来てね。お土産は沢山の珍道中話でいいですよ。待っているのは私一人じゃないからね。私のお腹には愛の証しが宿りました。エッもしかしたら、そうです。バンザイ。一・五人でお帰りをお待ちしています」……など今読み返すとはのぼのとしてきて、あの時は若かったなあ、なんでもバラ色だったなあと述懐しています。

あれから徐々に手紙のやりとりもなくなってきて、生活に追われ、時間に追われる毎日になってしまいましたね。今ここに、二三年分のラブレターをしたためました。

淳一さんお元気ですか。長い間御無沙汰して申し訳ありません。「光陰矢のごとし」ではないですが、あなたと結ばれて二三年になります。

大自然ののびのびとした所に育ったせいかな、あなたの心の雄大さと温かな人間性や抱擁力で私を包んでくれましたね。向学心に燃え、何にでも前向きな所が好きでした。

町の消防団員の時に、サイレンを聞くと一目散にハッピを着て飛び出ていき、なかなか帰ってこないで心配していたら、びしょ濡れになり、クタクタで帰ってきました。この二三年間の中で何度惚れなおしたことでしょう。愛して愛して、惚れなおして、惚れなおして正の字がいくつ出来るでしょうか。あなたはよく、他人の痛みのわかる人間になれと子供に教えていましたね。子供達も立派に育ってくれました。

これからは、また新婚時代のように二人の為にスイートホームを！